

ヤギ展示場に設置した陸橋の利用頻度向上のための試み

辰己 岳斗

(横浜市立金沢動物園)

横浜市立金沢動物園の家畜展示コーナー「ほのぼの広場」で飼育しているヤギの飼育環境向上のために市民から寄せられた寄付を活用し、ヤギ展示場に陸橋と日よけを設置した。ヤギは高所を好んで利用すると言われているが、設置した陸橋の利用頻度は低かった。これを解消するべく、陸橋の利用頻度を向上させるための取り組みを行ったので報告する。

ヤギ展示場の陸橋は、2カ所の休憩台とそれを繋ぐ6本の桁橋、橋に登るための3本の階段で構成された。陸橋のある展示場を使用するヤギは4頭（愛称：モチ、オハギ、ポッキ、メメ）で、性別はいずれもメスだった。

通常時には、①展示場の地上4か所にて乾草を給餌したが、その場合の陸橋の利用時間は展示場放飼時間中の割合として、モチ32%、オハギ11%だった。そこで、②給餌場所を休憩台2カ所と地上2カ所に変更したところ、陸橋利用時間はモチ45%、オハギ12%に増加した。オハギ、モチは陸橋利用時、桁橋（モチ22%、オハギ2%）よりも休憩台（モチ78%、オハギ98%）での滞在時間が長かった。そのため、③休憩台を2カ所増設し、給餌場所は地上4か所に戻したところ、陸橋利用時間は①程度に戻った。④給餌場所を休憩台4か所と地上2カ所に増やすと、陸橋利用時間はモチ%、オハギ%に増加した。ポッキ、メメはいずれの条件下でも陸橋を利用しなかった。

このことから、陸橋利用時は休憩台の滞在時間が長いですが、休憩台を増加させるだけでは陸橋利用時間は増加せず、給餌場所を陸橋上に増やすことで陸橋利用時間も増加すること、個体によって陸橋の利用頻度は異なることがわかった。

今後も陸橋を効果的に活用しながら、ヤギにとってより良い飼育環境整備に努めたい。